

全国に先駆けて開始した「在宅医療薬剤師レジデント制度」

～秋田大学医学部附属病院 薬剤部における取り組み～

近年、薬剤師による在宅医療への関与に期待が高まっています。在宅医療を進める上で、病院薬剤師のみならず保険薬局薬剤師の育成も重要となります。そこで、秋田大学医学部附属病院薬剤部では、全国に先駆けて独自の「在宅医療薬剤師レジデント制度」を2014年に創設しました。制度の概要やカリキュラムの内容、指導における要点などについて、薬剤部長の三浦昌朋先生にお聞きしました。

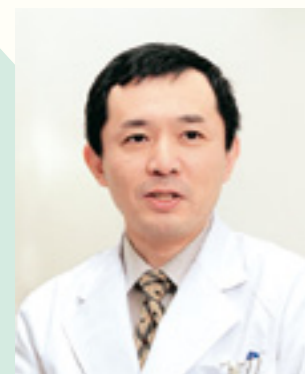
病院で働きながら学べる独自の研修制度

▶▶ 在宅医療薬剤師レジデント制度

を設けた背景をお聞かせください。

三浦 病院数が少なく、1病院あたりの診療圏が広い秋田県では、薬剤訪問指導など、薬剤師による在宅医療への積極的関与に大きな期待が寄せられています。在宅医療は、栄養や褥瘡、感染、緩和ケアなど総合的な知識が求められますが、県内には薬学部を持つ大学がないこともあり、卒後研修の場が限られています。

病院薬剤師だけでなく、保険薬局の薬剤師(以下、薬局薬剤師)に学びの環境を提供することも大学病院の使命と考え、在宅医療の研修方法を思案してきました。複数の薬局薬剤師からの要望を聴き検討を重ねた結果、



薬剤部長
三浦 昌朋 先生

単発的な講演会や勉強会よりも、病院で薬剤師として働きながら在宅医療に必要なスキルや知識を継続的に学べる「レジデント制度」が最善と判断しました。

制度導入にあたっては、院内の承認や関係部署(病棟、医療チームなど)の力添えを得て、2014年度よりスタートすることができました。

注射薬の調製や病棟業務、チーム医療にも参加

▶▶ 在宅医療薬剤師レジデント制度の概要をお教えてください。

図表1 1週間の研修スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
8:30~12:30	抗がん薬・TPN*用輸液調製				
13:30	薬剤管理指導/病棟業務 (持参薬管理・退院時指導を中心に)	薬剤管理指導/病棟業務	糖尿病カンファレンス	薬剤管理指導/病棟業務	薬剤管理指導/病棟業務
14:00		褥瘡対策ラウンド(6~12月)	薬剤管理指導/病棟業務	褥瘡対策ラウンド	NSTラウンド 糖尿病教室(毎月第2金曜)
15:00	緩和ケアラウンド(1~3月)	緩和ケアラウンド		感染対策カンファレンス・ラウンド**	
16:00	薬剤管理指導/病棟業務	薬剤管理指導/病棟業務	薬剤管理指導/病棟業務	薬剤管理指導/病棟業務	薬剤管理指導/病棟業務
17:00	NST担当者会議(毎月第4月曜)	食道がん カンサーボード	薬剤部 カンファレンス		
18:00					
19:00					

* TPN(Total Parenteral Nutrition):中心静脈栄養
**1年の上半期は感染対策カンファレンス・ラウンドにも月1回程度参加。

三浦 対象は薬局に勤務、または勤務予定の薬剤師です。募集定員は既に当院で実施している、がん専門薬剤師養成コースと併せて毎年3名です。研修期間は前期1年・後期1年の2年間ですが、研修生の状況に合わせ柔軟に対応しています。

カリキュラムは、基本的に午前中は注射薬の調製、午後からは病棟業務や医療チームでの活動に携わるようにしています(図表1)。

▶▶ 研修カリキュラムのポイントをお教えてください。

●注射薬の調製

在宅患者の増加に伴い、保険薬局

においてもTPN(中心静脈栄養)用輸液などの調製業務が求められる一方、実際に調製する機会はまだまだ多くありません。そこで、注射薬の調製業務を毎日行えるように時間を設け、スキルを身につけられるようにしています。2014年度の研修生1人当たりの調製件数は、月平均で抗がん薬645件、TPN用輸液156件でした。

注射薬の知識・理解を深めるためにも業務の実践は重要です。配合変化や、がん化学療法のレジメンに関する知識も調製業務を通して学びます。また、見落とされがちな注射薬と内服薬の相互作用についても、TDM(薬物血中濃度モニタリング)を行い、確認をしています。

その他、医薬品適正使用のために薬剤師が検査値を把握する意義や、重点的に見るべき次のような検査項目についても、注射箋鑑査など実務を通して学びます。

- 腎機能の指標として血清クレアチニンやeGFR(推算糸球体濾過量)
- ワルファリンの薬効評価ではPT-INR(プロトロンビン時間)など

●病棟業務

病棟業務では、様々な診療科を経験してもらいます(図表2)。特に、呼吸器・循環器内科は在宅患者さんの原疾患にも関わる領域であり、扱う薬剤も多種類にわたるため、研修期間を長くとっています。

業務は、常勤薬剤師と共通のマニュアルを用いて行います。患者指導では、飲み忘れなどアドヒアランスでの問題点を聴き取ったり、生活スタイルに合った服薬方法を患者さんと一緒に検討するなど、コミュニケーションスキルの習得に力を入れています。また、病棟薬剤師のミーティングや症例発表会にも参加し、臨床能力を磨きます。

●持参薬管理

持参薬管理は、持参薬のチェック

図表2 年間スケジュール例

	セントラル業務	薬剤管理指導・病棟業務	研修会など
4月	抗がん薬・TPN用輸液調製	診療科全般(持参薬管理を中心に)	●患者さんのための疼痛緩和教室(年2~3回) ●医療安全講習会(年数回) ●褥瘡研修会(9月・2月) ●抗がん薬レジメン審査委員会(年5~6回) ●NST関連教育講演(2カ月に1回) ●薬剤部カンファレンス症例発表会(9月・3月) ●フィジカルアセスメント研修(年数回)
5月		医薬品情報	
6月			
7月	麻薬管理補助	診療科全般(服薬指導を中心に)	
8月	TDM		
9月			
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

秋田大学医学部附属病院薬剤部の提供資料を基に作成

方法を習得するだけでなく、様々な薬袋やお薬手帳の記載内容を比較・検討できる良い機会です。病院側の立場に身を置くことで、保険薬局から病院へ行く情報提供の内容や方法を改めて振り返ることができます。また、今後期待される「健康サポート薬局」として、病院とのより良い連携方法を考える契機にもなると思います。

●チーム医療

各医療チーム(NST、ICT、褥瘡対策、緩和ケアなど)のラウンドやカンファレンスにも毎週必ず参加します。当該領域の専門・認定資格を持つ薬剤師とペアを組み、その活動を継続的に見ていくことで、どのように薬学的介入をしていくのかなど、医療チームにおける薬剤師の役割や視点を学びます。

●講習会・研修会

病院や薬剤部で行う様々な講習会・研修会を受講する機会も設けています。

その一つとして、医学部総合地域医療推進学講座の長谷川仁志教授の協力を得て、医学生向けのフィジカルアセスメント研修にも参加しています。皮疹や浮腫といった副作用に関連深い症状を重点的に学習します。

地域の薬剤師の活性化に向けて

▶▶ 3年目を迎えた現在のご感想と、今後の展望をお聞かせください。

三浦 レジデント修了者からは、「研修は、スキルや知識の習得だけでなく、薬剤部や病棟、医療チームのスタッフとの人脈構築にもつながった」との声も聞かれます。保険薬局に戻った後も、気軽に病院薬剤師や医師に相談できることは、大きな財産といえます。

より充実したプログラムへとブラッシュアップするために、更に多くの声に耳を傾け、研修方法を分析・評価したいと考えています。

将来的には、レジデント修了者が他の薬剤師を指導できるようになり、秋田県全体の薬剤師の活性化につながればと期待しています。

秋田大学医学部附属病院
秋田県秋田市広面字蓮沼44-2

開設:1971年
病院長:羽瀧友則
病床数:613床
診療科:33科
薬剤師数:30名
(2016年1月現在)

